



『糖尿病と認知症』



しもじ内科クリニック院長
下地 栄壮



先月号で糖尿病があるとがんを発症しやすいことについてご紹介しましたが、糖尿病がある人は認知症を発症しやすいことが分かっています。糖尿病があると、ない場合に比べて“アルツハイマー型認知症”は約 1.5 倍、“脳血管性認知症”は約 2.5 倍起こりやすいとされています。

アルツハイマー型認知症は認知症の中で最も多い型で、脳に“アミロイドβ”という老廃物が溜まることで引き起こされます。アミロイドβは、認知症の症状が現れる 20 年以上前から脳に蓄積し始めると考えられています。



なぜ、糖尿病があるとアミロイドβが蓄積しやすくなるのでしょうか。その理由の一つとして“インスリン分解酵素”の働きが考えられています。インスリンは膵臓で作られるホルモンで、血糖値を下げる働きをしています。役割を果たした使用済みのインスリンは、インスリン分解酵素の働きで分解されます。このインスリン分解酵素は、インスリンだけではなくアミロイドβを分解する働きも

持っています。糖尿病になると血糖値が上がるため、血糖値を下げるためにインスリンが増えてしまいます。すると、インスリン分解酵素は増えすぎたインスリンを分解するのに手いっぱいになってしまいます。そうするとアミロイドβの分解まで手が回らず、脳にアミロイドβが溜まってしまうのです。



脳血管性認知症は、アルツハイマー型認知症の次に多い型で、脳梗塞や脳出血などの脳の血管障害で起きる認知症です。大きな脳梗塞や脳出血を起こした時には急激に認知症が発症しますが、小さな脳血管障害を繰り返して徐々に認知症が進む人もいます。



糖尿病があると、脳梗塞や脳出血の原因となる動脈硬化が進行しやすくなります。糖尿病のある人は、高血圧症や脂質異常症を合併していることも少なくありません。これらの病気も糖尿病と同様に認知症のリスクになるため、糖尿病の治療と同時に厳格に治療をすることが大切です。



お知らせ

インフルエンザの予防接種を行っております。今年インフルエンザが流行すると予想されていますので、11月下旬までに接種することをお勧めします。予約制ではありませんので、ご希望の方は受付にお申し出ください。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦 3 丁目 2-49(福岡銀行美和台支店隣り)
TEL:092-605-6300